

香川県三豊市（国内4例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの現地調査概要（令和2年11月13日実施）

令和2年11月13日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境

- ① 当該農場は、1例目の農場から約2km、3例目の農場から約4km離れた丘陵地の中腹に位置し、付近は竹林や水田に囲まれている。
- ② 農場敷地の周囲に複数のため池があり、鶏舎から最も近いものまでの距離は約120mであった。さらに、農場から約930m離れたところに長径約210m、約1.2km離れたところに長径約380mの池があるが、調査時に水鳥が確認されたのは3つ目の池のみで、カルガモ34羽、マガモ11羽、ハシビロガモ1羽のほか、カワウやアオサギ、ダイサギ等の水鳥類が確認された。
- ③ 当該農場には開放鶏舎8棟、ウィンドレス鶏舎3棟の計11棟の鶏舎があり、すべて平飼いの鶏舎であった。発生時には開放鶏舎3棟に肉用種鶏が飼養されており、残りの8鶏舎は空舎であった。

2 通報までの経緯

- ① 管理人によると、発生鶏舎を含めた農場全体での1日あたりの死亡鶏は0~2羽程度で推移していたところ、2つに区分された発生鶏舎のうち一方の区分で11月11日朝に2羽の死亡鶏が確認された。朝以降、複数回確認したが、死亡鶏の増加はなかったことから様子を見たところ、翌日、11月12日朝に同じ区分で6羽の死亡が確認されたことから家畜保健衛生所に通報したとのこと。
- ② 管理人によると、11月12日の死亡鶏の一部では肉冠の黒赤色化が確認されたとのこと。

3 管理人及び従業員

- ① 当該農場では、発生時は7名の従業員が管理を行っているが、このうち2名の従業員は11月7日まで3例目の発生農場で鶏舎内作業を行っており、11月9日から当該農場にて、鶏の健康観察を行うとともに、集卵、清掃、死亡鶏の回収を行っていた。死亡鶏は、1例目の発生が確認されるまでは、週に3日程度業者が回収に来ていた。
- ② 管理人によると、従業員は農場専用の作業着と長靴を使用していた。また、鶏舎毎に専用の長靴と踏み込み消毒槽を設置していたが、長靴の履き替えの際に鶏舎内外の動線が交差していた。なお、鶏舎毎の手指消毒は実施しておらず、従業員によっては手袋の交換も行っていなかった。

4 農場の飼養衛生管理

- ① 鶏舎横には飼料タンクが設置されているが、当該タンク上部には蓋が設置されており、タンク内への野鳥等の侵入やタンク内の飼料への野鳥の糞等の混入の可能性は低いと考えられた。
- ② 飼養鶏への給与水は、消毒した地下水を使用しており、くみ上げ後、給水まで外気への開放部分はなく、野鳥の糞などの混入の可能性は低いと考えられた。
- ③ 管理人によると、鶏舎ごとにオールイン・オールアウトを行っており、オールアウトのたびに鶏糞の除去と鶏舎内の清掃・消毒を行っているとのこと。
- ④ 管理人によると、車両が当該農場に出入りする際、農場の入口に設置された動力噴霧器により消毒しているとのこと。
- ⑤ 発生鶏舎の側面は金網（マス目は約2.5×3cm）とその外側にロールカーテンが設置されている。管理人によると、発生時には、ロールカーテンは、日中は半分程度開放しており、夜間もすべては閉鎖せず、一部開放していたとのことであった。

5 野鳥・野生動物対策

- ① 発生鶏舎の側面の金網とその外側のロールカーテンは、いずれも一部に破損がみられた。また、鶏舎の壁面には小型の野生動物が侵入可能な 3cm 程度の間隙が確認された箇所があった。
- ② 管理人によると、鶏舎内でネズミなどの小動野生物や野鳥を見かけることはなかった。このため、殺鼠剤などのネズミ対策は実施していないとのことであった。
- ③ 現地調査では、鶏舎内にはネズミによるものと思われる断熱材の齧り痕や、ネズミのものと思われる小動物の糞が確認された。